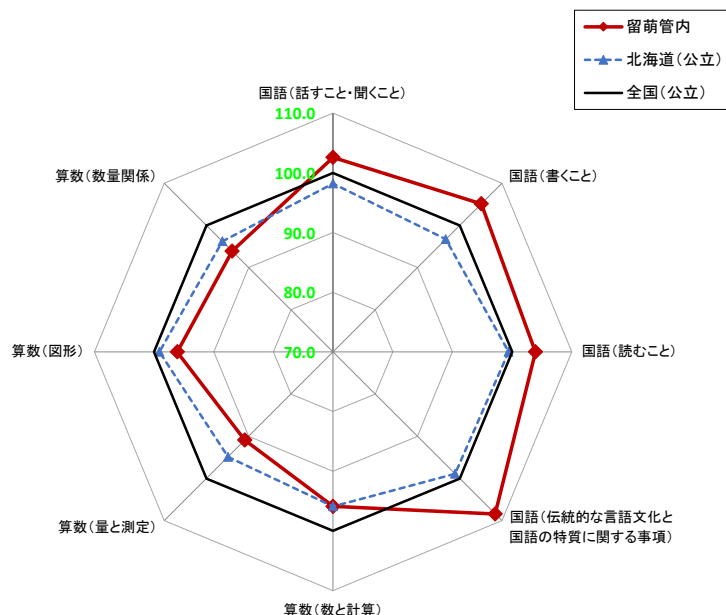


■小学校の状況(学校数:16校、児童数:302人)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したものと

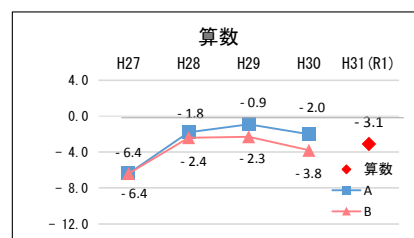
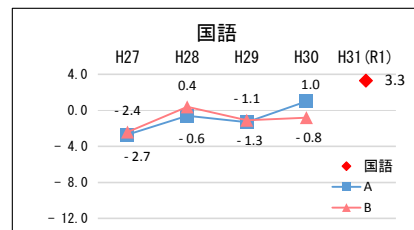
(全道及び管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【平均正答率】

	国語	算数
留萌	67[67.1]	64[63.5]
全国	64[63.8]	67[66.6]

【平均正答率の推移】(数値は管内の数値)

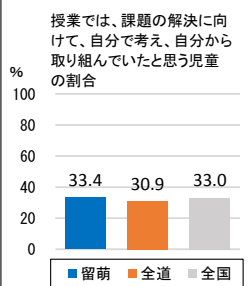


※「管内の平均正答率-全国(公立)の平均正答率」の経年変化

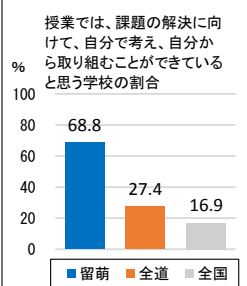
【質問紙の状況】

学習意欲、指導方法

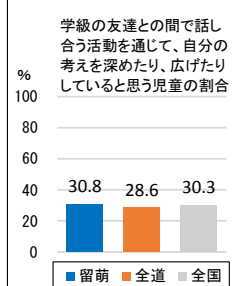
* 児童質問紙



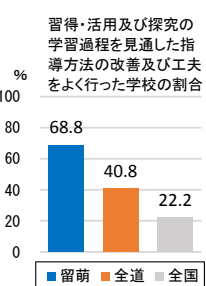
* 学校質問紙



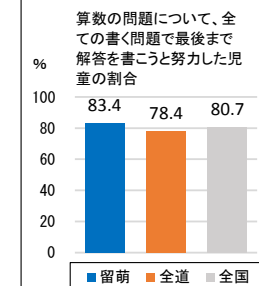
* 児童質問紙



* 学校質問紙

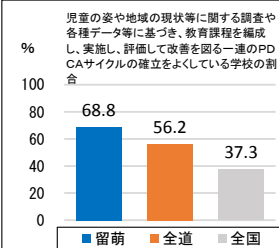


* 児童質問紙

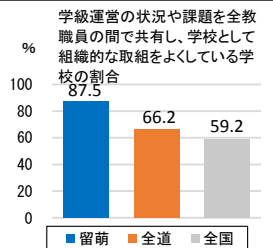


カリキュラム・マネジメント

* 学校質問紙

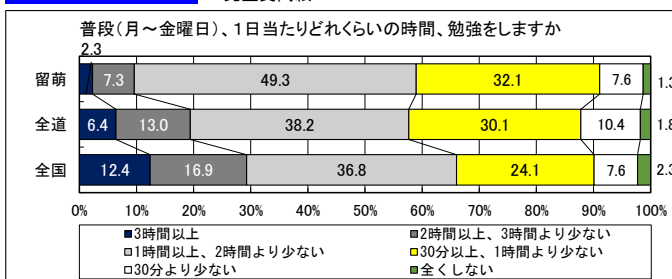


* 学校質問紙



学習習慣

* 児童質問紙



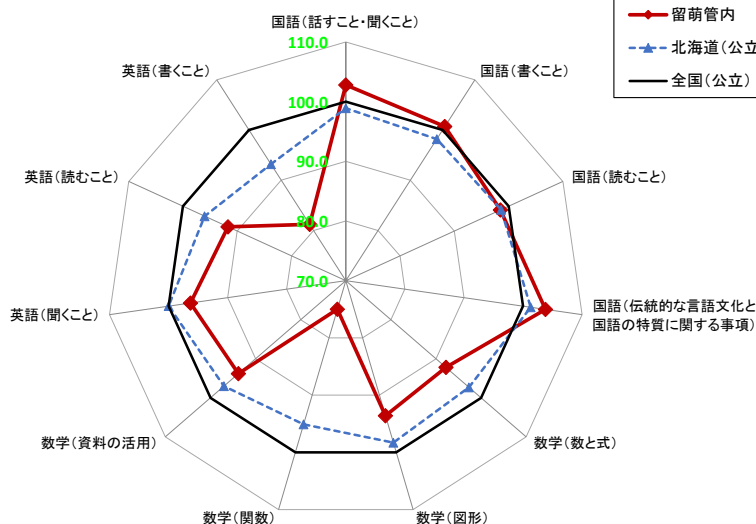
【分析及び改善の方向性】

分析	○ 児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルの確立をよくしている学校の割合は68.8%であり、全国及び全道を上回っている。 ○ 授業では、児童は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思う学校の割合は68.8%、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた児童の割合は33.4%であり、共に全国及び全道を上回っている。 ○ 普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上勉強している児童の割合は58.9%で、全国を下回っており、課題である。
改善の方向性	○ 各種調査の結果から自校の課題を分析し、PDCAサイクルを確立している学校は約7割にとどまっていることから、全ての学校において、自校の課題を分析し、評価・改善の方策を明確にして、組織的・継続的に取組を進める必要がある。 ○ 学校と児童の意識の差が大きく、学校が取組が児童の学びの姿につながっていないことから、児童が学びの変容を自覚できる場面を具体的に設定するなど授業改善を行う必要がある。 ○ 自校の学力の状況や取組の成果と課題について保護者や地域住民と共有し、学習習慣も含めた生活習慣の確立に向けた取組を進める必要がある。

■中学校の状況(学校数:10校、生徒数:295人)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したものと
(全道及び管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

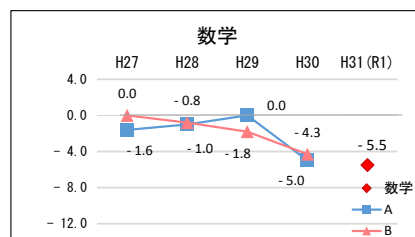
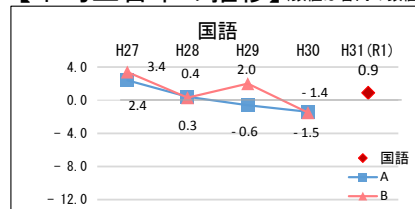


【平均正答率】

	国語	数学	英語
留萌	74[73.7]	54[54.3]	51[50.6]
全国	73[72.8]	60[59.8]	56[56.0]

※英語は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計値

【平均正答率の推移】(数値は管内の数値)

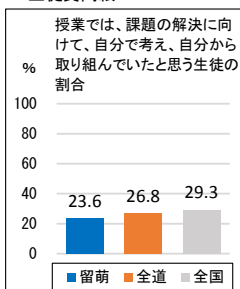


※「管内の平均正答率-全国(公立)の平均正答率」の経年変化

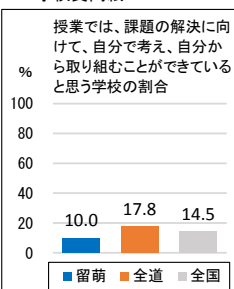
【質問紙の状況】

学習意欲、指導方法

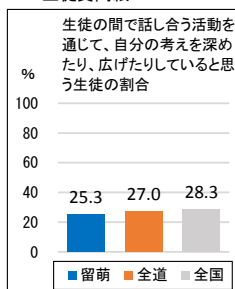
* 生徒質問紙



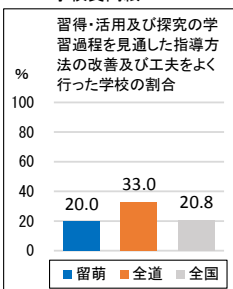
* 学校質問紙



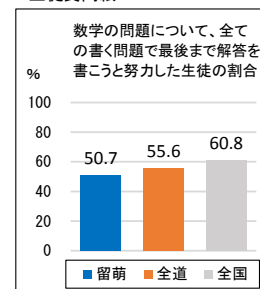
* 生徒質問紙



* 学校質問紙

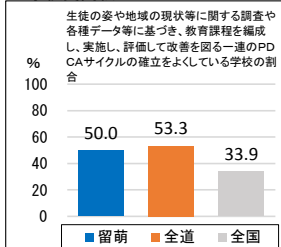


* 生徒質問紙

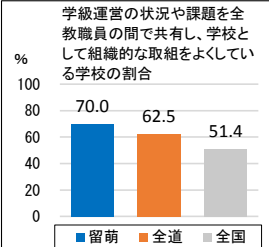


カリキュラム・マネジメント

* 学校質問紙

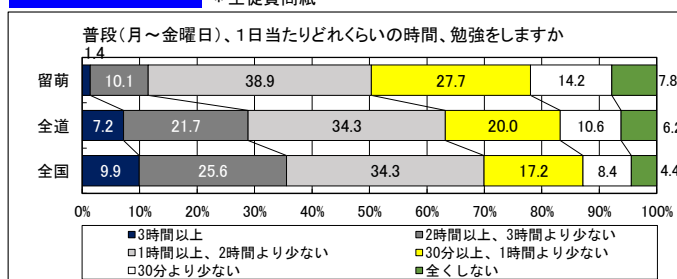


* 学校質問紙



学習習慣

* 生徒質問紙



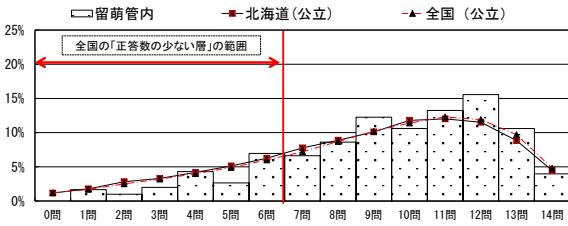
【分析及び改善の方向性】

分析	○ 生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルの確立をよくしている学校の割合は50.0%であり、全国を上回っている。 ○ 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる生徒の割合は23.6%、授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組むことができていると思う学校の割合は10.0%で、いずれも全国を下回っており、課題である。 ○ 普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上勉強している生徒の割合は50.4%で、全国を下回っており、課題である。
改善の方向性	○ 各種調査の結果から自校の課題を分析し、PDCAサイクルを確立している学校は5割にとどまっていることから、全ての学校において、自校の課題を分析し、評価・改善の方策を明確にして、組織的・継続的に取組を進める必要がある。 ○ 生徒が、単元をとおして、見通しを立てたり、振り返ったりして、学びの変容を自覚できる場面を設定するなど、学校全体で授業改善を図る必要がある。 ○ 自校の学力の状況や取組の成果と課題について保護者や地域住民と共有し、学習習慣も含めた生活習慣の確立に向けた取組を進める必要がある。

留萌管内

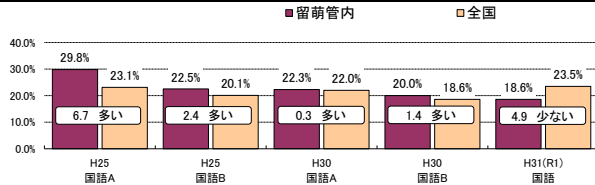
小学校国語

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
留萌管内	302	9.4 / 14	67.1	10.0	3.1
北海道(公立)	38,831	8.8 / 14	62.8	9.0	3.4
全国(公立)	1,028,203	8.9 / 14	63.8	10.0	3.4



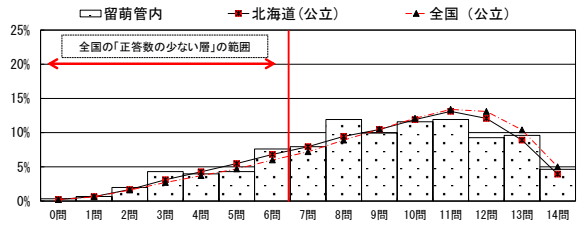
●全国の「正答数の少ない層」は、6問以下の正答数

全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合



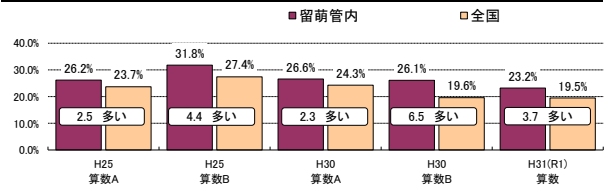
小学校算数

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
留萌管内	302	8.9 / 14	63.5	9.0	3.2
北海道(公立)	38,837	9.0 / 14	64.5	9.0	3.1
全国(公立)	1,028,177	9.3 / 14	66.6	10.0	3.1



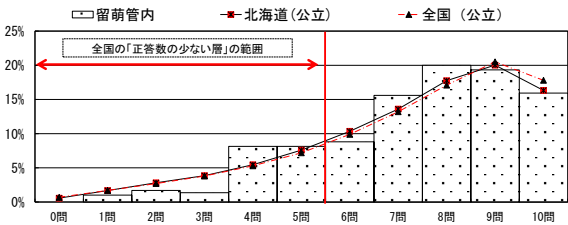
●全国の「正答数の少ない層」は、6問以下の正答数

全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合



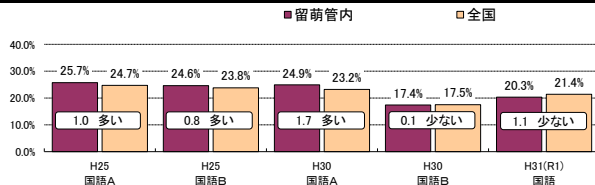
中学校国語

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
留萌管内	295	7.4 / 10	73.7	8.0	2.1
北海道(公立)	37,859	7.2 / 10	72.1	8.0	2.4
全国(公立)	938,797	7.3 / 10	72.8	8.0	2.4



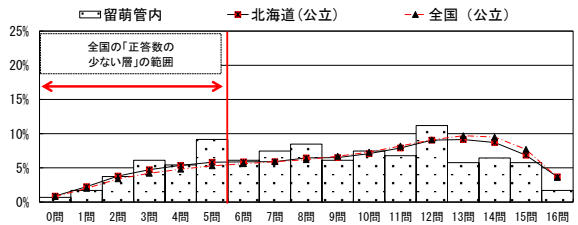
●全国の「正答数の少ない層」は、5問以下の正答数

全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合



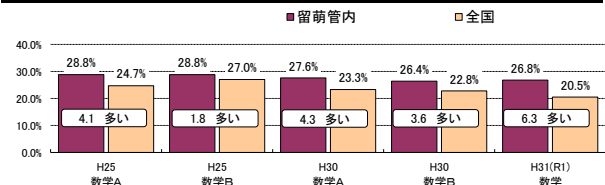
中学校数学

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
留萌管内	295	8.7 / 16	54.3	9.0	4.0
北海道(公立)	37,844	9.3 / 16	58.1	10.0	4.2
全国(公立)	938,887	9.6 / 16	59.8	10.0	4.2



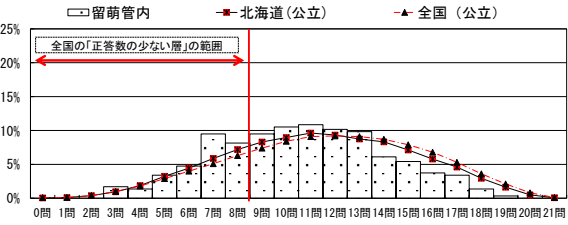
●全国の「正答数の少ない層」は、5問以下の正答数

全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合



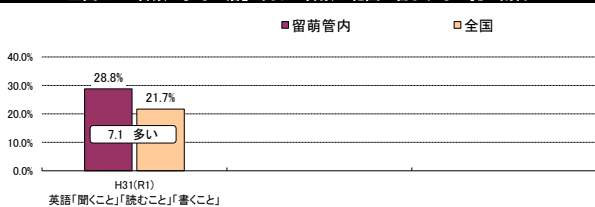
中学校英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
留萌管内	295	10.6 / 21	50.6	11.0	3.4
北海道(公立)	37,844	11.4 / 21	54.2	11.0	3.8
全国(公立)	938,888	11.8 / 21	56.0	12.0	3.9



●全国の「正答数の少ない層」は、8問以下の正答数

全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合



【参考】【平成28年度(小学校)】全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

小学校国語A

留萌管内	全国
19.2%	21.3%
全国との差 2.1	少ない

小学校国語B

留萌管内	全国
26.4%	29.8%
全国との差 3.4	少ない

小学校算数A

留萌管内	全国
26.7%	24.2%
全国との差 2.5	多い

小学校算数B

留萌管内	全国
22.2%	20.0%
全国との差 2.2	多い